

学 会 録 事

1. 2015 年度第 4 回持ち回り評議員会

第 4 回持ち回り評議員会（2015 年 10 月 7 日～10 月 21 日）を開催し、【議案 1】現和文誌編集委員長の任期の 1 年間延長（現会長、前会長、現和文誌編集委員長、および現英文誌編集長からなる役員会の提案により、現和文誌編集委員長 畠田智氏の任期を 1 年間延長する）と【議案 2】(株)成山堂書店出版「みんなが知りたい海藻の疑問 50」（仮称）の執筆協力（(株)成山堂書店からの書籍執筆依頼に対し日本藻類学会として出版計画に則り執筆に協力する）の可否を審議した。その結果、国内評議員 16 名のうち、賛成 13 名、反対 0 名により両審議事項が承認された。

2. 自然史学会連合

2015 年度自然史学会連合総会が 2015 年 12 月 19 日に東京大学総合研究博物館ミュージアムホールで開催された。北山太樹会員（国立科学博物館）が出席。

<報告事項>

1. 現在の加盟団体は 39 学協会（昨年から変動なし）。2. 運営委員会を 6 回開催。3. 博物館部会を 3 回開催。4. ホームページ：適宜更新。5. 書籍出版計画：多くの学会員の協力により「理科好きな子に育つふしぎのお話 365」（誠文堂新光社）が 2015 年 2 月に出版された。2015 年 12 月時点で 4 刷、合計 3 万部を発行。6. 講演会の開催：平成 27 年度自然史学会連合講演会「自然史への招待：自然を見る目、自然を解き明かす心」2015 年 11 月 22 日（日）10:00～16:30 三重県立総合博物館。主催は自然史学会連合と三重県立総合博物館。過去 3 年間の試みを継承し、午前に講演会（演者 4 名）、午後はブース型体験教室「わたしの目で見る自然史」を行った。後者については茨城県自然博物館のほか運営委員会からの募集に応じた 7 学会と地元 3 団体がブースを出した。参加者は講演会 90 名、ブース展示 328 名。7. 各種アンケートに適宜対応：「日本学術会議協力学術研究団体実態調査」（日本学術会議）。

<審議事項>

1. 2014 年度会計決算および監査報告：説明の後、承認された。2. 2015 年度会計経過報告：説明の後、承認された。3. 2016 年度事業計画：運営委員会（5 回）、博物館部会（2 回）、

一般向け講演会（群馬県立自然史博物館にて夏に開催予定）：説明の後、承認された。4. 2016 年度予算案：説明の後、承認された。

3. 日本分類学会連合

日本分類学会連合第 15 回総会が 2016 年 1 月 9 日（土）10:00～11:40 に国立科学博物館上野本館講堂で開催された。田中次郎会長と鈴木秀和庶務幹事が出席。

<報告事項>

1. 2015 年度活動報告：第 32 回役員会を開催（1/9、東京大学総合研究博物館）、第 14 回総会を開催（1/10、国立科学博物館上野本館講堂）、第 14 回公開シンポジウム I 「国立自然史博物館の設立を望む」を開催（1/10、国立科学博物館上野本館講堂）、第 14 回公開シンポジウム II 「分類学と応用科学の接点—人間社会にとって必要不可欠な分類学」を開催（1/11、国立科学博物館上野本館講堂）、生物科学学会連合第 9 回定例会議に出席（2/15）、第 33 回役員会を開催（ABS 問題対策 WG と国立自然史博物館新設 WG を設置）（5/8、東京大学総合研究博物館）、生物科学学会連合第 12 回定例会議（10/3）に村上哲明代表が参加（文科省の「卓越研究員制度（案）」についての説明を受け意見交換）、独立行政法人大学評価・学位授与機構の研究開発部が実施した「学協会における、大学・大学院教育の分野別質保証の取り組み状況に関する調査」に対して回答書を作成・提出（12/21）、第 34 回役員会を開催（「分類学の一般社会への認知を高めるための各加盟団体の取り組みに関するアンケート」の素案を作成）（2016/1/8、東京大学総合研究博物館）。2. ニュースレター：第 26 号（9 月）発行（2015 年 1 月に開催された第 14 回シンポジウムのプログラム・要旨を中心に掲載）。3. ホームページ：ニュースレター、シンポジウム、国内重要コレクションなどの情報を掲載。4. データベース：国内重要コレクション調査の結果（植物標本）を連合ホームページ上で公開。協力団体・個人の把握が不完全なため、加盟団体に協力を要請。5. メーリングリスト：Taxa 会員数は 1,047 名（2015 年 12 月 10 日現在）、1 年間に 21 名増。6. ABS 問題：ABS 問題対策 WG 発足（座長：村上哲明（日本分類学会連合代表）、委員：駒井智幸（日本動物分類学会）、荒谷邦雄（日本昆

虫学会, 日本甲虫学会), 細矢剛 (日本菌学会), 藤井伸二 (種生物学会), 江口克之 (日本分類学会連合庶務幹事) (5/8), 文部科学省ライフ課 ABS 担当からの ABS 対応に関する現状報告の依頼に対して回答書を取りまとめ・提出 (5/11), 国立遺伝学研究所知財室鈴木睦昭室長より村上哲明代表へ ABS 関連国内法整備に向けた関係省庁間の議論の状況説明 (10/7), 環境省生物多様性施策推進室に赴いて名古屋議定書に関わる国内措置 (利用国措置) のその時点での環境省の考え方について村上哲明代表が説明を受け意見を求められた (11/16), 文部科学省ライフサイエンス課より村上哲明代表へ ABS 関連国内法整備に向けた関係省庁間の議論の状況説明, 日本分類学会連合第 15 回総会・公開シンポジウム (2016 年 1 月 9 日) での講演を依頼 (11/19), 第 15 回公開シンポジウムの冒頭にて文部科学省ライフサイエンス課による ABS 関連の講演を予定 (2016/1/9)。7. 国立自然史博物館新設: 国立自然史博物館新設 WG 発足 (座長: 大塚攻 (日本分類学会連合副代表), 委員: 松浦啓一 (日本魚類学会), 神保宇嗣 (日本昆虫学会), 西田治文 (日本植物分類学会), 村上哲明 (日本植物分類学会), 保坂健太郎 (日本菌学会), 渡辺恭平 (神奈川県立生命の星・地球博物館), 江口克之 (日本分類学会連合庶務幹事)) (5/8), 第 1 回会合を開催 (6/6, 中央大学後楽園キャンパス), 国立自然史博物館設立に関する意見書の草稿をもとにメール審議を開始 (7/22), 第 2 回会合を開催 (意見書草稿の最終調整) (10/5, 中央大学後楽園キャンパス), 「国立自然史博物館設立に関する日本分類学会連合国立自然史博物館ワーキンググループからの意見書」を日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会 (第 23 期) の岸本健雄委員長に提出 (10/8), 沖縄県立博物館開催「シンポジウム: 沖縄に国立自然史博物館を! ~次世代の博物館像を求めて~」に村上哲明代表が参加 (国立自然史博物館設立に関する日本分類学会連合としての意見を陳述) (11/14), 日本分類学会連合加盟団体に「国立自然史博物館設立に関する分類学会連合国立自然史博物館ワーキンググループからの意見書」を配信しコメントを依頼 (11/17), 岸本健雄委員長より村上哲明代表へ「国立自然史博物館の提言 (案)」の査読依頼があり加盟団体代表者に回覧 (12/22)。

<審議事項>

1. 役員の選出: 2016 ~ 2017 年役員会案 (代表: 大塚攻 (広島大学大学院生物圏科学研究科), 副代表: 細矢剛 (国

立科学博物館植物研究部), 庶務幹事: 富川光 (広島大学大学院教育学研究科), 会計幹事: 清拓哉 (国立科学博物館動物研究部), 監査員 (2 期目: 2016-2017): 上島励 (東京大学大学院理学系研究科), 監査員 (2 期目: 2015-2016): 篠原明彦 (国立科学博物館動物研究部)) の説明の後, 承認された。2. 2016 年度広報出版委員会委員の選出: 役員会案 (委員長, Web: 佐々木猛智 (継続) (東京大学総合研究博物館), ニュースレター: 江口克之 (首都大学東京大学院理工学研究科), データベース: 海老原淳 (継続) (国立科学博物館植物研究部), 出版, 命名規約: 川田伸一郎 (継続) (国立科学博物館動物研究部), メーリングリスト: 三中信宏 (継続) (農業環境技術研究所地球環境部)) の説明の後, 承認された。3. 2015 年度決算 (一般会計と特別会計) および会計監査報告: 説明の後, 承認された。4. 2016 年度事業計画: 以下の事業について説明があり, 承認された: 2016 年第 15 回公開シンポジウムの開催 (1/9, 国立科学博物館上野本館講堂), 2017 年第 16 回公開シンポジウムの開催 (2017/1/7, 開催地・内容未定), ニュースレター 27 号の発行, ホームページ従来通り継続, データベースの構築継続 (国内の重要コレクション実態調査の継続)。5. ABS 問題対策 WG と国立自然史博物館新設 WG は新体制のもとでも, 委員会に準ずる位置づけで, それぞれ以下の活動を行う。ABS 問題対策 WG: ABS に関する国内外の情報収集と加盟団体への情報発信を行う。国立自然史博物館新設 WG: 加盟団体の意見を集約し, 自然史研究の振興という日本分類学会連合の目的に合う, より良いマスタープランを描き, 提案する。6. 2016 年度予算: 予算案 (一般会計) について説明があり, 承認された。7. 国立自然史博物館新設に関して: 「国立自然史博物館設立に関する日本分類学会連合国立自然史博物館ワーキンググループからの意見書」に関する意見交換。適宜修正を加えたものを日本分類学会連合の意見書として公表することについて説明があり, 承認された。「国立自然史博物館の提言 (案)」に関する意見交換。連合として提言 (案) を支持することについて説明があり, 承認された。国立自然史博物館新設に関して日本分類学会連合は今後も支持し, 積極的に関与していくことについて説明があり, 承認された。

4. 水産・海洋科学研究連絡協議会

平成 27 年度第 1 回協議会が 2015 年 5 月 19 日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。

<議題>

1. 議長の選出：渡部終五氏が推薦され、全員一致で承認された。2. 副議長の選出：日本付着生物学会の代表（加戸隆介氏）、マリンバイオテクノロジー学会の代表（今田千秋氏）、地域漁業学会の代表（田和正孝氏）が推薦され、全員一致で承認された。3. 幹事の選出：日本学術会議の代表幹事として竹内俊郎氏、本協議会の幹事として佐野元彦氏が推薦され、全員一致で承認された。4. 各学会の活動の紹介があった。5. シンポジウムの開催について：渡部終五氏より、水産に特化した放射能に関するシンポジウムの開催が提案された。竹内俊郎氏より、11月下旬の開催とする提案があった。和田時夫氏より、放射能に関するシンポジウムについて、将来の展望の話題をいれる提案があった。協議会での議論を踏まえ、渡部氏と竹内氏で検討を進めることとなった。

平成27年度第2回協議会が2015年11月26日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。田中次郎会長が出席。

<議題>

1. 日本学術会議食料科学委員会水産学分会の以下について、渡部終五氏より報告があった。1) 公開シンポジウムの計画を承認。2) 名古屋議定書関連検討分科会が発足し、水産学分会から廣野育生氏（東京海洋大）が幹事として参加、今年度中に問題点を整理し提言を出す予定。3) 日本学術会議Gサイエンスで諮っているサミットのテーマとして「海洋」が候補。4) 参照基準農学分野がまとまる。5) 東日本大震災にかかる学術調査検討委員会の個人的な

活動の報告をまとめる予定。6) 地球温暖化時代における持続可能な水産業のあり方をまとめる予定。7) 学術の大型研究計画について議論進行中。8) 東京オリンピック・パラリンピック食料調達基準に向けた持続可能な水産物のあり方が話題。9) 11月27日公開シンポジウム開催後に第23期第6回分科会が開催される予定。2. 各学会の活動の紹介があった。3. 公開シンポジウム「東日本大震災による原子力発電所事故に伴う魚介類の放射能汚染の問題と今後の展望」の準備状況および当日のスケジュールについて、竹内俊郎氏より報告があった。4. 「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準農学分野」報告と今後の課題について、青木一郎氏より報告があった。5. 生物多様性条約・名古屋議定書に関して、渡部終五氏よりABS学術対策チーム開催の「海洋遺伝資源のアクセスと利益配分のあり方」の報告があった。6. 日本学術会議第23期「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」について、渡部終五氏より昨年からのマスタープランについての報告があった。渡部氏より水産学分会、窪川かおる氏より海洋生物学分会の動向について説明があった。神田稷太氏と伊藤進一氏より日本海洋学会のマスタープランについて説明があった。

自動会費納入

会員各位

会員管理事務の効率化と経費削減のため、自動振替による会費納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。当面の間は引き落とし手数料（税別155円）を学会の負担とさせていただきます。また、自動振替をご利用の会員全員に領収書を発行させていただいております（送付は12月末の引き落とし後）。

事務手続き上、外国会員につきましては従来通りクレジットカードによる、また学生会員につきましては郵便振替による振込みのみとさせていただきますので、ご了承ください。振替依頼文書をご希望の方は、下記事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

庶務幹事（会員担当）

【お申込み・お問い合わせ先】

〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5-1

高知大学教育研究部総合科学系黒潮圏科学部門 関田論子 宛

Tel 088-844-8697

E-mail sekida@kochi-u.ac.jp